

保護者と協働するキャリア教育

グローバル化の進展が急激に進み、社会全体が不透明さを増す中、高校時代という人生で最も大切な時を過ごしているお子様の未来に向けて、各家庭・各学校・各地域で様々な取組みがなされています。

東北地区高等学校PTA連合会進路対策委員会では、リーフレットの形で今年度の活動のとりまとめを行いましたので、各家庭・各学校において指針の1つとしてご活用していただければ幸いです。

自己実現のために、全力で応援してほしい

東北地区高等学校PTA連合会進路対策委員会委員長 全国高等学校PTA連合会進路対策委員会委員
福島県立橘高等学校PTA会長 田中清美



思いもよらず平成28年度東北地区高P連進路対策委員長を仰せつかりましたが、関係者の皆さまのご協力のおかげをもちまして、無事その任を終えることができますこと、心より御礼申し上げます。

さて、昨年は、英国のEU離脱・米大統領選挙での共和党候補の圧勝などを予想し得た人は、少ないと思います。また、新興国の成長にも陰りが出るなど、低成長・マイナス成長が当たり前の時代になってきています。このような中、右肩上がりの経済成長を経験してきた大人の価値観と、現在の生徒の皆さんの価値観は異なると言えるでしょう。私は、親から「いい学校を出て、いい会社に就職できるよう、がんばれ」と言われましたが、一流の学校を卒業したとしても、就職先の上場企業ですらリストラが横行する時代です。また、現在の若者は、「もの」から「こと」消費、つまり体験等に対する消費へ動向が変わってきているといわれています。すなわち、これまで当たり前のことが当たり前でなくなるかもしれません。このように混迷するこれからの時代では、なんとなく進学・就職することは、その後の人生を大きく変えることとなるのです。早い段階から自分の将来の目標を決め、そこから逆算してくる必要があると思います。とはいえ、自分が「どんな進路や就職が向いているかわからない」と思うことの方が多いと思います。保護者、先輩、先生などからいろんな話を聞き、その上で、最終的には自分で判断するしかありません。私自身、娘から就職に際し、「どの会社がいいと思う？」と言われ、判断のアドバイスはしましたが、娘が就職先を決めました。社会は、楽しいことばかりではありません。大変なこともありますが、彼女は自分で決めたことに対し、誇りと責任があり、何とか会社を辞めずにいます。決して逃げることなく、自分の信念を貫き通せるよう、心も体も鍛えてください。

保護者の皆さまにお願いします。先に述べたように、生徒の皆さんと我々の価値観は、大きく乖離していることを忘れないでください。2015年全国高P連で実施した「高校生と保護者の進路に対する意識調査」では、生徒と保護者の意識の違いがはっきり出ています。自分の価値観だけで判断するのではなく、生徒の選択を尊重してあげてください。そして、自己実現のために、全力で応援してほしいと思います。



お子様にとって最適な進路選択を実現する為に

リクルートマーケティングパートナーズまなび事業本部高校支援統括部

進路サポート部東日本推進グループグループマネージャー 田畑香織様

進路選択で一番大事なこと、それは、進学先に合格することや進学先を決めることではない。「なぜ、その道を選択するのか？」の理由を、その道を歩む本人がしっかりと持つこと、と私は考えます。そう高校生に伝えております。大学進学率が50%を超え、大学進学が当たり前の時代になりました。何学部が就職に有利なのでしょう？理系を選んだ方がよいのでしょうか？看護師になるためには、大学と専門学校、どちらに進学した方がよいのでしょうか？高卒就職のメリット・デメリットにはどんなことがあるのでしょうか？この様な質問を生徒・先生・保護者の方から講演後の質疑応答では多く頂きます。が、私は解をもっていません。答えられたとしてもそれは統計から導いた確率的に有利か不利かの答えになるかと思えます。ベストな進路選択の在り方は十人十色。だからこそ、保護者と先生の存在がとても重要になります。もっとも身近にいる先輩の生き方を知り、知恵をもらうことが、彼らがベストな選択する過程で必要だと私は思います。高校生は、身近なところから目標を見つけます。それでいいと私は考えます。体験や知識を広げていくことで、身近なものが増えていく。そうすることで、目標のバリエーションを増やし、大きさも育てていけばよいと思います。未来に今決めた目標が変わっても構いません。大事なことは、この「今」にどのような目標をもち、どうその目標に取り組んでいるか、だと思えます。

高校生に、進学する理由や目的をインタビューすると、「…なんとなく」「楽しそう」「大学で何かが見つかるかもしれない」「就職はまだ無理だから」という答えが返ってくるが多々あります。危険です！深く考えていない、後悔する進路選択になる可能性が大きいです。このような高校生に出会った時、私は、彼らの漠然とした表現の根っこにあるはずの具体的な何かを探すために質問を投げかけます。「一つでいいから出してみて」「どんなことが楽しそうだと思う？」「どんなことが大学で見つかったら満足？」「就職が無理だと思うのはなんで？」などなどです。二、三度、質問⇨回答を繰り返すと、彼らは、もっと深く考えないといけないことに気づきます。たくさん保護者様とお話する中で感じることは、お子様の将来がより幸せな未来になる為に、真剣であるということです。だからこそ、彼らがなぜその道を選択したいのか、選択するべきなのかを問うてあげてください。その上で、保護者としての考えや想いを共有してあげてください。彼ら彼女らが10年後20年後も力強く自力で生きいくためにも、今の瞬間にきちんと意思をもって過ごしているかを見守りながら、我々大人が全力でサポートしていきましょう。

高校生と保護者の進路をめぐる意識と行動の実態を調べ、両者のよりよい意思疎通の在り方を研究するとともに、その成果を広く社会に提言することを目的とした一般社団法人全国高等学校PTAと株式会社リクルートマーケティングパートナーズによる「高校生と保護者の進路に関する意識調査」も7回を数えます。
今回は、調査の分析結果の一部を紹介しますので、各県・各校の今後のPTA活動の参考にしてください。
(一般社団法人全国高等学校PTA連合会のホームページからもご覧になれます。)

8 進路選択の相談相手

▶高校生が進路を考えるうえで相談する相手は、「母親」が突出。

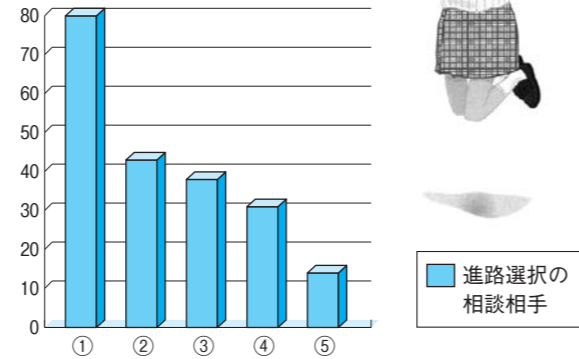
- ① 母親 (80%) ② 友人 (43%) ③ 父親 (38%)
④ 担任の先生 (31%) ⑤ 兄姉 (14%)

▶高校生に進路を考えるうえで相談する人すべてを尋ねた。

トップは「母親」で突出。過去調査と同様、8割に達する。

▶進路希望別に見ると、いずれの進路とも「母親」がトップ。
大学短大進学は他進路希望者に比べ「担任の先生」「塾・予備校の先生」のスコアが高く、相談相手が幅広い。

▶高校生に一番の相談相手についてその理由を書いてももらったところ、「母親」は会話・相談の頻度が高く自分を理解してくれているという“親近感”、「父親」は冷静な判断や的確な答えなどに対する“信頼感”があることがうかがえる。「友人」は、同じ状況・立場など“仲間意識”から、話しやすさ・理解・励みを感じているようだ。

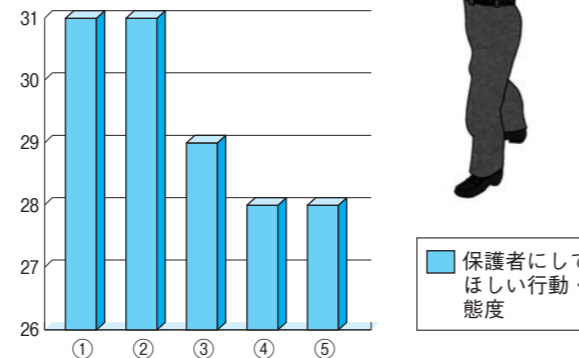


13 保護者にしてほしい行動・態度

▶高校生が進路選択で保護者にしてほしい行動・態度は「私の考えを尊重する」がトップ。

- ① 私の考えを尊重する (31%)
② 具体的にアドバイスする (31%)
③ 私の話をちゃんと聞く (29%)
④ 進路について私よりも詳しく情報収集する (28%)
⑤ あたたかく見守っている (28%)

▶進路選択に関して保護者が干渉的と感じている高校生は「考えを尊重」「放っておいてくれる」など主体性を保つ距離感を、無関心と感じている高校生は「アドバイスする」「話をちゃんと聞く」「情報収集する」など積極的な関与をそれぞれ希望している。

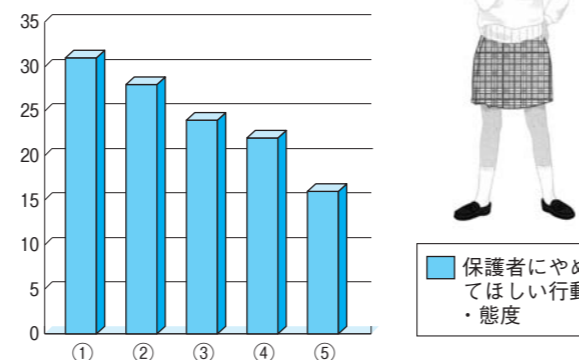


14 保護者にやめてほしい行動・態度

▶高校生が進路を考えるうえで保護者にやめてほしい行動・態度は「高望み」と「勉強や成績の話」。

- ① 望みを高く持ちすぎないでほしい (31%)
② 勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい (28%)
③ プレッシャーばかりかけないでほしい (24%)
④ 自分の考えを押しつけないでほしい (22%)
⑤ 頭ごなしに夢や進学先の希望を否定しないでほしい (16%)

▶保護者が干渉的・無関心と感じている高校生は、やめてほしい行動・態度が多い。



28 将来必要とされる能力／現在持っている能力

▶高校生が考える将来必要とされる能力は、

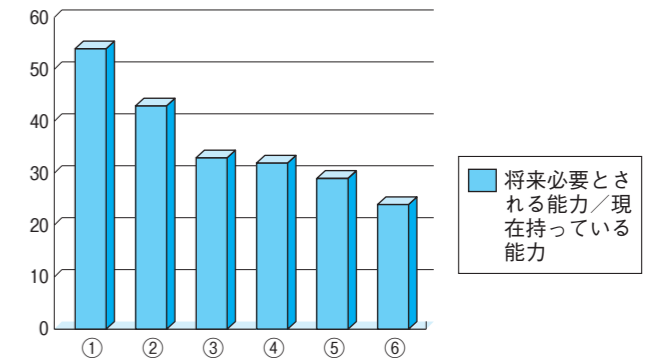
- ① 「主体性」(54%)
② 「実行力」(43%)
③ 「発信力」(33%)

▶現在持っている能力は、

- ④ 「傾聴力」(32%)
⑤ 「規律性」(29%)
⑥ 「柔軟性」(24%)

▶将来必要とされるが現在の自分に不足している能力は、「物事に進んで取り組む力(主体性)」(32%)
「目標を設定し確実に行動する力(実行力)」(29%)
「自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)」(25%)の順に高い。

前に踏み出す力(アクション)	主体性・実行力・働きかけ力
考え抜く力(シンキング)	創造力・課題発見力・計画力
チームで働く力(チームワーク)	発信力・状況把握力・ストレスコントロール力・柔軟性・規律性・傾聴力

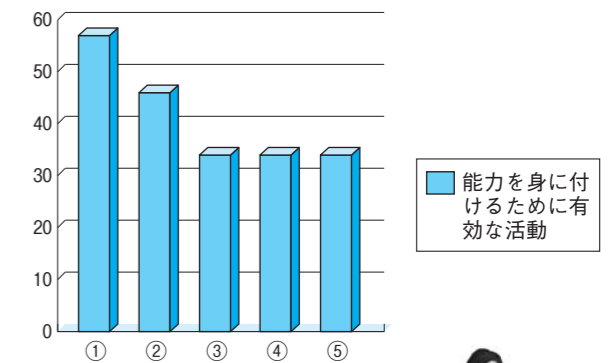


29 能力を身に付けるために有効な活動

▶高校生が考える、必要な能力を身に付けるのに最も有効な活動は、「部・クラブ活動の時間」である。

- ① 部・クラブ活動の時間 (57%)
② 文化祭や体育祭などの学校行事 (46%)
③ 校外活動 (地域行事・ボランティア・インターンシップ等) (34%)
④ 教科の時間 (生徒が中心となって主体的に学ぶ授業) (34%)
⑤ 修学旅行や遠足 (34%)

▶経済産業省で定義されている『社会人基礎力』を身に付けるのに有効な活動を高校生に尋ねたところ、トップは「部・クラブ活動の時間」で半数を超えていた。
希望進路別に見ると、大学等進学希望者は「部・クラブ活動の時間」「文化祭や体育祭などの学校行事」が他の層に比べて高い。

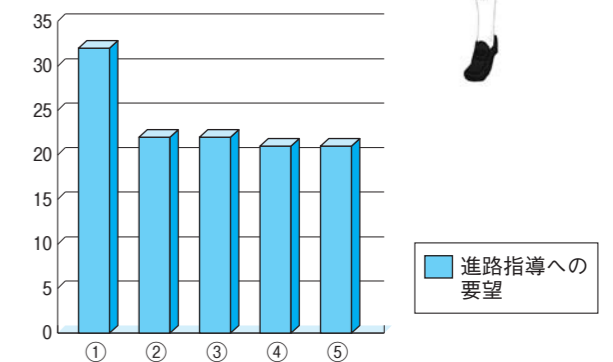


35 進路指導への要望・意見

▶高校の進路指導に対する高校生の要望は、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい。」が一番高い。

- ① もっと進路に関する情報提供をしてほしい (32%)
② もっと生徒のことを理解してほしい (22%)
③ もっと進学や就職に関して具体的に指導してほしい (22%)
④ もっと職業に関する知識を持って指導してほしい (21%)
⑤ もっと適性や可能性を気づかせてくれる指導をしてほしい (21%)

▶フリーコメントでは、「個人で話す時間をつくってほしい」「価値観を押しつけないでほしい」など、一方的ではなく個人の希望を聞いた上での指導をしてほしいという意見・要望があげられた。





●●● 東北各県の取組み ●●●



福島県立相馬東高等学校PTA会長 猪狩 浩孝 副委員長

福島県では、年2回進路対策委員会を開催し、進学、就職に関するリーフレットを作成し、保護者と生徒の進路意識を高めたいと考えています。



また、各校保護者も、進路講演会を開催したり、大学や企業を訪問したりと、調査研究をしています。子どもの希望進路実現のためには、子どもの気持ちを理解し共通理解を図り、その子どもの個性を尊重し、希望を最大限叶えることの出来る進路指導を展開していくことが保護者に必要ではないでしょうか。

青森県立鶴田高等学校PTA会長 前田 晴茂 副委員長

青森県高P連では、進路対策に関わる研修を毎年実施しており、今年度は「21世紀の学力～自立して生きる力を育てるには～」をテーマに、スクールアドバイザー・ネットワーク理事長の生重幸恵氏より「キャリア教育の重要性～学校・家庭・地域の更なる連携～」と題した講演をいただきました。雇用情勢や教育制度が変革していく中で、子供たちをどう育てるか、親としてどう成長していくかなど、キャリア教育が重視されている今、PTAの役割発揮がいっそう求められています。



岩手県立一戸高等学校PTA会長 柴田 正三 委員

岩手県の進路対策委員会の活動について紹介します。第1回進路対策委員会で、「会社が求める人材」について、県内4ブロックから会社を選定してアンケート調査をし、その結果を保護者の方々に紹介するということになりました。調査結果としては、「コミュニケーション能力」、「自主性」、「協調性」が多かったです。



また、日常生活の過ごし方で身に付いていくようです。(東北地区高P連進路対策委員会の講話から)進路について、家庭で普段から話題にしましょう。

秋田県立湯沢高等学校PTA会長 高久 臣平 委員

秋田県高P連に加盟する各校PTA会長は、総務・健全育成・進路対策・調査広報のいずれかの委員会に所属しています。



進路対策委員会では活動方針として、地域の企業や求められる人材などの情報を保護者と学校が共有するために、地元企業や商工団体等との意見交換の場を持つ必要がある、と委員の意見が一致しました。取組みは緒についたばかりですが、継続的に取り組むことで、早期離職の防止につながる保護者としての心構えなどを共有できればと考えています。

宮城県蔵王高等学校PTA会長 今村 幸栄 委員

宮城県では、年3回のリーフレットの発行と、8月と11月に委員会を開催し、各校の情報交換や、委員の研修を行いました。8月は白石市の竹鶏ファームを訪ねて、生産現場の見学と、地域の中小企業が就職を希望する高校生に何を期待するかということについて志村社長から講演をいただきました。11月には東北工業大学を訪ねて、学内見学と、大学を選ぶときに大切なことについて、大学の先生や現役学生の話の聞くなどして研修を行いました。



委員会の活動内容を、県高P連のWebサイトに掲載して、広く紹介しています。

山形県立置賜農業高等学校PTA会長 伊藤満世子 委員

「もっと保護者が寄り添って」



山形県では、県内統一した進路対策の取組みは行っていません。私の所属している置賜地域では進路講話を行っている学校が多いようですが、変わった取組みとして、3年生の進路激励会として保護者による「力餅の会」を行っている学校もあります。今回、進路対策委員会に参加して、社会がどんどん複雑化している中、進路を決める際に保護者がもっと子どもに寄り添ってあげることが必要だということを伝えていくべきだと感じました。

活動記録

平成28年度 東北地区高等学校PTA連合会進路対策委員会の活動記録

第1回委員会：平成28年6月15日(水) 仙台ガーデンパレス〔活動の基本方針と活動内容〕

第2回委員会：平成28年10月14日(金) ホテル辰巳屋〔東北各地区の活動、講話、リーフレット作成〕

第3回委員会：平成28年12月22日(木)～23日(金) ホテル辰巳屋〔東北各地区の活動、講話、リーフレット作成〕

◆ 編集後記 ◆

東北地区高等学校PTA連合会進路対策委員会もメンバーを一新し、田中清美委員長、猪狩浩孝副委員長、前田晴茂副委員長の下、和やかな雰囲気の中で協議が進められました。高校生の進路をめぐる課題は多岐にわたることから、第2回委員会では株式会社リクルートマーケティングパートナーズの田畑香織様から貴重な講話を頂戴するとともに、相互に意見交換をする中で共通理解を図りました。また、第3回委員会では福島県教育庁教育総務課長高橋洋平様から「頑張る学校応援プラン」について懇切丁寧な説明をいただき、今後の学校・家庭・地域社会の関係づくりの重要性について再確認することができました。

各校において本リーフレットを御活用いただければ幸いです。

(福島県高等学校PTA連合会 事務局長 高橋正人)

作成：東北地区高等学校PTA連合会 平成28年度進路対策委員会

発行：平成29年3月1日

事務局：福島県高等学校PTA連合会 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5 (県青少年会館内)

TEL:024-545-3368 FAX:024-545-3402 E-mail:ptarengoukai@h6.dion.ne.jp